

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	子どもの意識のベースをさぐる : おうち
Author(s)	中川, 節子; 工藤, 昌明; 茂木, 真弓
Citation	児童の言語生態研究 , 15 : 64 - 70
Issue Date	1997-01-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045177
Right	
Relation	



子どもの意識の ベースをさぐる

——おうち——

中川節子

工藤昌明

茂木真弓

授業案

一、日時 平成二年八月八日(水)

午前九時三十分～十時十五分

二、児童 宮城県石巻市立石巻小学校

一年二組(工藤昌明学級)

男一七名 女一五名 計三二名

三、領域 「感情」

四、授業テーマ 子どもの意識のベースを

探る ——おうち——

五、テーマ設定の理由

我々は、「個性とは、ある人間における人間性の部分ではなく、また特異な面のみをさすのではない。むしろその人間を根源から揺り動かしているものか、どのように表れているか、また、その根源的なものがその人にどのような方向性を与えているのか、と

いうふうな、人間の魂の問題として命の発露として個性を捉えていくことが個性研究の第一歩である。」という考えに立って、個性研究を続けてきた。

そして、人の夢の構造を見れば、その人の基本的な行動や情動を規定している最も「根元的なもの」の無意識世界の世界認識(世界観)を見ることができるとはならないだろうかという仮説に立って研究をしてきた。

そこで、夢が「あの世」「べつの世界」「異次元の世界」といったような特殊な世界を設定し、そしてその世界を行き来するということから「夢の境界領域の認識」ということが大きな問題になってきた。

古来日本人は「うち」と「そと」、「こちら」と「あちら」というように、境界領域に対して敏感だったといえる。

では、日本人は「うち」と「そと」というようなことをどう意識し、区別しているのだろうか。

「別の世界」に向かわんとする生命体はその起点(もと)となる場所(うち)をどのように意識しているのか。新しい課題はその意識を探ることであった。

その意識とは、つまり、生命体が「休み」「帰る」場所(うち)の時間・空間・人間意識のことであり、これを明らかにすることによって、最も根元的なものの無意識世界の認識をはっきりさせることでもある。人の子がこの世に生をうけるところ、ひとつの生命体がこの世に姿を現すところは家である。この子に視力が出て来た時、老若・男・女、様々な異なった顔に会おう。この顔は、この生命体を守り育てていく者たちであり、この生命体に限りない愛情を注ぎこむ。重層をなした組織、つまり真の家を形成している。

だから、もし生命体がこの家を忘れたとしたら、人は秩序を失うし、生命の尊さを学ぶ理由がなくな

る。私どもは、まず子ども達が、家にどれだけの愛着性を持っているのかを聞き出さなくてはならないと思う。

家は、ねぐら、つまり、生命体が休むところ、ねむるところである。気持ちよくねむれる所でこそ、生命体に安らぎと活力がもたらされる。だが、子ども達は、本当に気持ちよく寝ることができているのだろうか。二番目に、私達が問おうとするのは、子ども達が、家をどうイメージしているかである。

生命体が、己れを生命体として意識する時、それは、夜である。それは、生命自身に呪術性が附与されているからである。つまり霊的存在として子どもを考えようとする故に、生命体と取って呼ぶ。夜をおびえる子、それは、生命体としての呪術性・神秘性を感じる力の強い子である。それは、何らかの対象を見てそう言うのではない。生命体を包んでいた環境に変動があったとすると、生命体そのものに変動が生じるから、体感が堅くなるからである。この生命体の感性が息づいているところが家だということである。これが三番目の問題点である。

第四番目に問題とするのは、空間・時間・人間関係の相関の中に、世界観を得ているということである。

以上、四つの観点から、子ども達の「おうち」のイメージを刺激して、まだ未発見の子どもの生命体としての意識に迫りたい。

六、指導計画 (一時間扱い)

七、本時の目標わたしの「おうち」

八、本時の展開

学習活動	指導上の留意点
学習のめあてを確認する 1、今日はみんなでおうちの話をしましょう。 2、おうちを絵にかいてみました。 (①つばめのおうち) (②さざえのおうち) (③たこのおうち) 3、つばめのおうちです ①みんなもお母さんいね。どんなお母さんかな。 ②みんなのおうちにはだれがいるの。 おうちで楽しい所なんだね。 ③この子達が大きくなる と、どうなるかな。 ④じゃあ、おうちを離れちゃうんだね。みんなはおうちがあつていいね。 へまた次の春になるとつ	(学習の手順及び児童の発言の予想) 三枚見せて つばめだけ残し 二枚はかくす。 つばめを確認したら、すぐに隠す。 *やさしい (家と母) *かばってくれる (庇護) *だっこしてくれる(包まれている) *お母さん *お父さん *家族 e t c つばめの絵の提示 *大人になる *飛んでいく (家との別れ) (家を後にする) *つばめはまた帰ってくるんだよ。 (家の復帰) (家の復活)

4 ⑤でも、一生おうちを離れない生き物もあるんだよ。 ⑥さざえのこのふたは何だろうね。 ⑦このふたのとびらは何のためにしているんだろうね。 ⑧おうちを守る為にこのふたの扉があるんだね。おうちを守るをいう事は命を守る事なんだね。おうちで本当に大切にだね。 ⑨でもみんなはおうちで何か怖いめにあった事はないかな。 ⑩そういう時はどうするか。 ⑪さあ、これはたこのおうちかな。 ⑫たこのおうちに入る所？たこのおうちにはつばまかな？ ⑬みんなもおうちに入り	さざえの絵の提示 *さざえはからが おうちなんだ。 (自分と家) *おうちのとびら だよ。(内と外) *敵が来たら入れ ないようにするんだよ。(自己防衛) (自分と家) 深層への導き *るすばん *しーんとしたお うち(身体感覚) *鍵をかける。 (予感・気配) たこの絵の提示 *たこのおうちだ *たこのおうちじ やない。 *入りたいたい。
---	--

たい？入りたくない？
・ ・ ・ じゃ、おうちはいらないの？

6 ⑭おうちをひっ越ししな
くではならなかった佐
藤先生にその時のお話
をしてもらいます。

⑮佐藤先生の話
7 ⑯みんな知ってるかな
浦島太郎の話。

⑰もしもおうちがなくな
ったらどうしますか。

⑱おうちのなくなったお
話をしてあげよう。

⑲ ○ ○ ○ 先生の話

⑳ この小林先生は今日の
みんなのお話を聞いて
いたら、こんな歌が歌
いたくなったんですつ
て。歌ってもらおう？
もらわない？

㉑ この絵を見ながら、み
んなの頭に浮かぶお
うちのお話を聞かせてく
ださい。

(家への愛着)

* おうちはいる。
* ないと困る。

ひっ越しの話

(家の崩壊)

浦島の絵の提示
浦島“の家への
追及

* おうちがないと
困る。

* おうちがないと
生きていけない。

(消失)

(家が私か
私が家か)

お皿の話

(家の意識の残像)

♪どこでねるの
小林先生、歌う。

夜空の絵の提示

(安らぎ)

(安心立命)

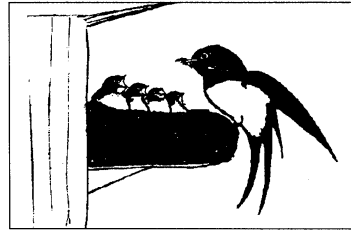
(眠る)

九、評価

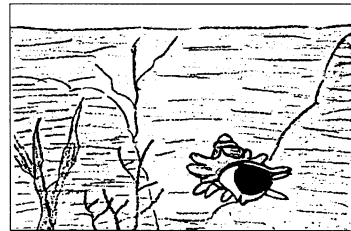
おうちのイメージを思うことで、意識のベースに
どこまで迫りえたか。

授業で用いた絵

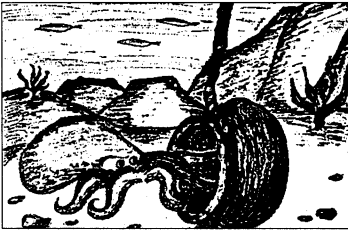
① つばめのおうち



② さざえのおうち



③ たこのおうち



④ 浦島の話



⑤ 夜空の絵



授業記録

T みんな今日はどこから来たかな？

C 泉町四丁目

C 泉町二丁目

T みんなそこに何があるのかな？

C おうち

C アパート

T おうちがあるんだね。アパートの中に何がある？

C ファミコンのカセット。

C おもちゃ。

T さつき、けいこちゃんが言ってくれたけど、お
うちがあるんだね。今日はみんなとおうちの話を
しましょう。

* 『つばめのおうちの絵』を提示。

T これは、何でしょう？

C つばめ。

C つばめの巣。

C つばめのおうち。

* 『サザエのおうちの絵』
を提示。

T 今度は、何かな？

C 海。あとヤドカリ。

C 似てるけど違う。サザエ。

T サザエって知ってる？

C サザエさん。

T ああ、それもあるね。

・ ・ ・ これは、サザエの何
なんでしょう？

C おうち。

*『たことつぼの絵』を提示。

T これは、何だろうね？

C たこの巣。

C たことつぼの中に入るところだ。

C たこのおうち。

C たことつぼ見たことあるよ。

C たこにゅうどう。

T じゃあ、いろんなおうちがあるけどね、このおうちから話していこうね。つばめのおうちの中はどうか？何か思った事を言ってみてください。

C ことがいる。

C つばめのお母さんがいる。

C 木がある。

T 木の所に巣があるんだね。つばめにはお母さんいるけど、みんなはどうかな？

C いるー！

C 後ろにいるー！（後ろで参観している母を指差す。）

T みんなのお母さんってどんなお母さん？

C わかんない。

C やさしい。

C ちよつとだけ怒る。

T 怒る時は、ちよつとだけなんだね。

C 怒ると怖い。

C おこりんぼ。

C 普通のお母さん。

T 普通ってどんなお母さん？

C わかんない。

T じゃあ、おうちにいるのはお母さんだけかな？
お父さん。弟。

C おばあさんと、弟と妹。

C おじいさんと、お姉ちゃんとお兄ちゃん。

(いろいろと出る。)

T いっぱいいるね。そんなふうには、おうちにいる

人の事、何て言う？

C 家族。

C もうひとつ言い方ある。親子。

T 先生、びっくりしちゃった。みんながおうちの

事を良く分かるから。

*『つばめのおうちの絵』を指しながら
T つばめの巣があつてお母さんがいるね。お父さん

もどつからか飛んで帰ってくるかもしれないね。これが『ぼく』かもしれないね。そのとなり

にいるのが弟かもしれないね。妹かもしれないね。

・・・でねえ。この子達が大きくなつたらどうなるんだろう？

C つばめになる。

C おとなのつばめになる。

T おとなのつばめになるとずつとここにいるのかな？

C いない。

C 川とかに行つて魚とかのエサを捕る。

C 違う所に住む。

T ずつとここにいないんじゃないんだね。

C もし、妹だつたらお母さんになる。

T ずつと子どもじゃなくて、大人のつばめになつて、おうちから・・・どうなつちゃうのかな？

T それは、つばめさんの子ども達がバラバラになつちゃうのかな。

C ちがう。

T じゃあ、おうちがバラバラになつちゃうのかな？

C なんないよ。軽すぎて。

C 新しいつばめがまた入ってくる。

T いつ入ってくるの？

C 探して見つけたら入ってくるの？

T 見つけたらすぐ入ってくるの？

C 何日かたつてから。

T つばめは、今いるかな？

C 帰りにつばめがいる。

T 寒い寒い冬になるとどうかな？

C なくなる。

C つばめに帰る所があるの。

C 南の国からまた帰ってくる。

C 暖かくなると帰ってくる。

T 暖かくなると帰ってくるんだね。

C 南の島から。

T そうすると、またここでどうするの？

C 巣を作るの。

T また中に？

C 子どもができる。

C 巣もどんどん大きくなる。

T そうしておうちがどんどん続いていくんだね。

T つばめさんみたくにおうちから飛び去っていくものもあるけど、一生おうちの中にいるものもあるんだ

よね。何だろう？

*『サザエのおうち絵』を示す。

C やつぱり。

T このサザエの茶色い蓋みたいなのは何？

C サザエのうち。

C ドア。

C ドア？

C 変なの！

- C エサ。食べ物。
- C エー！固そうだよ。
(多少、もめる。)
- T これさっきおうちのドアって言ってた。先生もそうだと思う。じゃあ、何でドアが閉まっているの？
- C 用事がある時だけ開ける。遊びに行く時もある。
- C 水が入ってくるから。
- C 他のやつが入ってきたら困るから。
- T 他のやつって？
- C どろぼう。
- C 食べに来るどろぼう。
- C くじら。
- C くじらだったらうちごと食べちゃうよ！（騒然となる。）
- T 海の中にもどろぼうがいるんだって。だからサザエさんはドアをしつかり閉めてるんだって。ドアは、おうちの中っていうのとおうちの外っていうのを区別してるんだね。つばめさんとはそこが違うね。海のどろぼうさんがやってきてサザエさんの命をバクツてやっちゃうかもね。おうちがなかつたらどうなる？
- C 大変。死んじゃう。
- C 食べられちゃう。
- C 完全に中身も食べられちゃう。
- T おうちとはとても大切なんだね。ところでみんなは、おうちで怖いめにあったことある？
- C うちの弟が後ろから攻撃してくる。
- T それは最初からうしろに弟がいると思った？
- C いないと思った。
- T 他にいるかな。
- C ねてる時、変な音がした。
- T シーンとしてた時、そこにミシッ、ミシッとしたの。
- C (他の児童達) ギャー。こわーい。
- T 怖いよね。そんな時みんなどうする？
- C ぼく、ぐっすり寝ているからわからない。
- C 「うらめしや」だー。
- C 警察よぶ。
- C 殺す。
- T 相手がおぼけだったらどうするの？
- C でんきをつけて明るくする。
- C 幽霊は明るいの手先だからつける。
- C ぼくね、冬の時サンタクロースがいた。
- T おうちって、うんと楽しいな、っていう時と、こわいな、っていう時とあるんだね。
- * 『たこのおうちの絵』を示す。
- T これはたこのおうちかな。
- C そう。
- C 違う。たこを捕まえようとしていて罨をしかけているの。
- C たこのエサを入れておくの。
- T たこがエサを食べに入ったらどうなっちゃうの？
- C 上に人間がいてひっぱっちゃうの。たこがわからないで入ると。
- T これは、たこのおうちじゃないらしいね。どうしてたこはつぼに入ってしまうんだらう？
- C エサとかがつぼにはいつてるから。
- C おうちだと思っはいつちゃったの。
- T たこはおうちを探していったんだね。
- C みんなもおうちに入りたいたい？
- C 入りたい。もし冬だったら風邪ひくもんな。
- C ごはんがない。もし食べなかつたら死んじゃう。
- T じゃあね、こんなに大事なおうちを、さつきもお引越するって言った人いたね
- C たこみたいに引越するんだよ。
- T どんな気持ちなんだらうね。こんな大事な大事なおうちからお引越しなければならなかった思い出のあった先生から、お話しをしてもらいます。佐藤先生です。
- T (佐藤) あのね、先生のおうちにも子どもがいるの。それでね、その子が生まれて今まで育ってきたおうちをね、三つの時にね引越さなければならなくなつたの。大きなトラックが玄関に来てね、中の荷物をいっぱいいっぱい積んでいったらね、玄関で子どもがね「おうちが壊れるー！」ってね泣き出しちゃったんだよ。
- C 意地悪したんじゃないだよ。
- T (佐藤) 意地悪したんじゃないよ。
- T お引越しの話、わかった？ウーって泣いちゃったんだって。泣きながら何で言ったか覚えてる？
- C うちがこわれる。
- T おうちは本当に壊れたの？
- C 壊れない。引越ししただけ。
- T だけど荷物出していったら「壊れる」って泣いちゃったんだよ。
- C 壊れると思ったんだよ。
- T どうして壊れると思ったんだらう？
- C 荷物が運ばれていったから。
- T 大事な大事な物もどんどんトラックに運ばれていったんだね。
- C 自然に壊れちゃうと思った。

T 形はあつてもね。ちよつと難しかったかな。じゃ、これは何だかわかるかな。

*『うらしまの絵』を示す。

C 仙人だ。

C 浦島太郎。

T その通り。浦島太郎さんです。けむりが出て、おじいさんになってしまいました。

浦島さん、この後どうしたんだろう？

C 年をとっちゃった。はこを開けたら。

T 浦島おじいさんになってしまったんだね。浦島太郎さんは童宮城に行つてたんだよ、知ってる？

C 何年もたつて、おうちが壊れちゃつたんだよ。

何年もいたから。お母さんも死んじゃつたんだよ。

C 違う人のおうちになつちやつたんだよ。

T もう、おうちがなくなつてたんだね。さあ、みんなどうする？おうちがなくなつちやつたら。

C 困る。病気になつた時とかお母さんがいないから困る。

C どつかに泊まればいい。しんせきのうちとか。

T おうちがなくなつちやつたら自分のおうちにはもう・・・

C 入れない。

T だから、よその所に寝たりしなくつちやいけな

C もし行けなかつたら病氣とかになつて死んじやう。

T そうだね。おうちがないと命にかかわってくるんだね。ばたつと死んでしまうかもしれないんだね。

C じゃあ、もう一回竜宮城に行けばいい。

T そうだね。亀さんが連れてつてくれればいいけ

どね。じゃあね、みんなおうちがなくなつたら困つて言つたよね。これからね、おうちがなくなつてつても悲しい思いをした先生にね、お話をしてもらいたいと思います。〇〇先生です。

T (〇〇) 先生はね、大人になつてからね、よそのうちに行かなくちゃならなくなつたの。それで、今まで小さい時から住んでいたおうちから一人で引越してその家に行つたの。「そうか、今日からこの家に新しいおうちとして住むんだな。」つて思つて今まで大事にしていた荷物を持って、それでそのおうちに行つたの。そしたらね、その新しいおうちの人がね「何でこんなに荷物を持ってくるんだ。」つて言うの。「服だけでもつてくれれば困らないだろ。それ以外の物はみんなこのうちにあるんだよ。」つて・・・だからこの先生が持つてきた荷物は「邪魔だから元の家に置いて来なさい」つて。それで先生、しょうがないから元のうちにいたお母さんにね、荷物をこつちに置けないから置かせといてくれない？つて頼んだんだけどね「もうあなたは、あの家の人になつたんだから、あの家に置かせてもらわなかつたらおかしいよ。」つて先生のお母さんは言うの。

C どつちにすればいいか分らない。

C わけを言えはいいじゃない。

T (〇〇) で、もう一度新しいうちのの人に聞いたんだけど「邪魔だ。」つて言われて、もうどうしていいのかわからなくなつちやつたの。たしかに、今度のおうちにはいろいろ揃つていたの。今まで住んでいたおうちより大きいしね。庭もあつたし門もあつたしふとんもあつたしね。パジャマも新しいの買つておいておいてくれたの。そのうちの

人が。でも先生はそこに住んでいてもね、ここが新しいおうちだなつて思えなかつたの。すごく悲しかった。寝ていてもね、すごく悲しかった。

『先生のおうちはどこなんだろう？』つてずーつと考えたの。そう思いながら毎日毎日そのおうち、つていうか家で暮らしてたの。で、ある日、先生が一人で暮らす事になつて、また引越して、よその家を借りて、自分一人だけで暮らすことになつたの。それで引越しました。そうしたら引越したの時に先生のお母さんが手伝いに来てくれたの。その時お母さんが「おみやげ」つて言つてだしてくれたのが、先生がみんなと同じ一年生だつた頃からお前のうちですつと使つていたお皿だつたの。お母さんがね「なつかしいでしょう、ずつと使つていたお皿だよ。」つて持つて来てくれたの。すごく嬉しかった。そのお皿をね、新しく住む事になつた台所に置いたらね、すごく気持ちが悪うつとしてね、その夜からすごく安心して眠れるようになったの。今はそのおうちが先生にとつては「あー、ここで寝るとほつとするな。」つていうおうちのの。また今日、これが終わつておうちに帰つたらぐつすり眠れると思います。これで先生の話は終りです。

T どう思う？〇〇先生の話。

C 浦島太郎みたい。

T 浦島太郎さんはおうちが本当になくなつちやつたんだね。〇〇先生はおうちがあるんだよ。だ

けど先生はおうちがないつて言つていたんだよ。おうちの形があつても、おうちがないよ、つて〇〇先生は思つたんだよ。でも何で〇〇先生はここ

がおうちだなんて思えるようになったんだっけ。

C お皿。

T そこの瀬戸物屋で買ってきたお皿？

C 小さい頃から使っていたお皿。

T それをそばに置いたら自分のうちだなんて……
どうして思ったんだらう。

C なつかしいから。

C 自分のうちのものだから。

C 心がすっきりした。

C 小さい時の事を思い出すから。

T 思い出すと心がすっきりするのかな？

C うん。

T わかりました。

T (小林) 私はね、東京の先生なんだけど、この子は私の子どもなの。まだお母さんと離れられないの。それでどうしても今日は石巻の工藤先生のクラスの授業に出たかったから一緒に来ちゃったの。それでずーっと話を聞いていたらね、いつもおうちで歌っている歌のことを思い出しちゃったの。何かね、歌いたい気持ちになつてきちゃったの。

C みんなで歌おう、それ。

T (小林) じゃ歌ってみるね。

♪どこでねるの ぞうさん 草の上

♪どこでねるの ありさん 土の中

♪どこでねるの 鳥さん 木の上

♪どこでねるの 魚さん 水の中

♪どこでねるの 赤ちゃん ふとんの中

C 知ってる！

C なつかしい！

C 聞いた事ある。ぼく三番よく歌ったの。

T おうちの歌だったね。じゃあね、こっちの絵を

見てください。

*『夜の絵』を示す。

T 見たら、目をつぶって下さい。思い浮かぶかな。

思い浮かんだら目を開けて下さい。おうちの話を最後に聞かせてもらいたいと思います。何でもい

いから聞かせて下さい

C お母さんがやさしかったこと。

C お母さんが抱っこしてくれたこと。

C うちのお母さんが、どっかに行つて帰つてこな

かったことがある。

T どんな気持ちだった？

C 忘れちゃった。

T 他にあるかな。

C お母さんとお買い物に行つた事。

C ぼくはいつも行つてる。

C お母さんが買うのを忘れたものをぼくが買いに

いったんだ。

T おうちの為に働いたんだ。

C 小さい頃、お母さんに抱っこしてもらったの。

T 今日は、おうちの話、いっぱいいっぱい聞いてもらいました。まだまだいっぱい頭の中に入っていると

思います。先生はとっても感心しておうちに帰ることが出来ます。

ありがとうございます。

授業反省より

上原 今日授業のテーマ、意識のベースにそまっ
ていこう、意識のベースにもどしてやりさえすれば
子どもは必ず発言するし、我々の知らない世界、子
どもの内面性にスーッと入つていきたい、こんな風
に考えてみたんです。……私も今日は目頭が何度

かあつくなる、そういう瞬間瞬間があったわけですね。こういうあたりが意識のベースに戻った、と思
うわけです。そういう事が一番直観的にわかるのが
お母さん、そこを大事にするのが教育なんですよ
……まだ生まれて数年しか経っていないのに、あ
の子達の口から『なつかしい』という言葉が出るの
はどういう事だろうと思います。この言葉を使うの
は早すぎるんじゃないですかね。でも意識のベース
へ戻っていくから『なつかしい』と、こう言つて
るんだと思います。……

